



未来をつくるのは子ども、 子どもの中に未来がある

劇団風の子が八王子市美山町に拠点を構えて30年がたちました。日本全国の子どもたちに芝居を届ける旅公演の中で、各地方のあそびや文化、芸能に触れる機会が数多くありました。脈々と流れる人々の思いの深さ、そこから表現される伝統文化、芸能の数々。それは、その土地に根付く人々の思いをこめた豊かさを感じさせてくれます。

そして私たちも、ここ八王子周辺に伝わる伝承あそびやわらべ唄、民話、文化、芸能を今一度見つめ直し、掘り下げ、長い間受け継がれてきた素敵な素材をいかしながら、子どもたちと共に新たな劇空間を創りあげていきたいと思うようになりました。

本来子どもがもっている“あそび心”“イメージ力”を信じ、伝承文化を見直すと同時に、現在と未来を生きる我々と子どもたちの手で、この作品を通して、新たな「あそび」や「文化」を再創造していけたらと思っています。

作・構成演出 中島 研

おもな内容

■ オープニング
山車(だし)遊び

■ もの売り遊び
とんがり売り
まゆ玉売り
あめ売り
ざる売り

■ お芝居

「まゆ玉と龍神」

「でいだらぼっち」

原案/金田拓

(「」の中から細み合せて
上演します)



わらべ唄と郷土

私たちは、それぞれ生まれ育った土地の空気を吸い、風を、味を、音を、リズム等を五感(官)でいっぱい吸収して成長していきま

す。
遠い昔、近い昔、たしかに聞いたことがある「イナイナイバーニオツムテンテン」

まだ、しゃべれない、うたえない時期に育った環境からの「耳こぼし」は、感性を磨き、心を豊かにしていきます。ひざのうえでゆつたりと抱かれた安心感、ぬくもり、全身で覚えた快感は、幼い心の財産です。どこかで、だれかがうたったわらべ唄を、おもしろかった、楽しかった、うれしかった感動と共に、だれかが、どこか運んできました。自然や文化的環境のちがいはあってもわらべ唄は、その時代を反映してうたわれていきます。

私たちの生活環境がどんなに変わっても、無視されても、わらべ唄は、どんな隙間からでも、子どもたちの心にのびこんで、生命力をかちとってしまします。子どもにとって常には常に新しく、いつも自分たちの真実を表しているのが本当のわらべ唄なのです。

あそび・わらべ唄の研究者 古賀由美子

